



初登庁 役場玄関前にて



くりばら みのる
板倉町長 栗原 実

町政運営に 全力で 取り組みます

11月17日(月)、栗原町長が初登庁。役場玄関前で、大勢の支援者や町職員の出迎えを受けました。町民からの期待を受け、第5代板倉町長として任に就く栗原新町長。就任にあたってのごあいさつをお届けします。

公僕としての原点に帰り

初冬の候、町民皆様にはお元気で各方面でご活躍のこととお喜び申し上げます。

私ごと、この度の町長選挙におきまして、経験豊かな前町長に代わってその責を担うことになりました。未熟な私ですが、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、今日、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不況が世界に広がりを見せる中、我が国経済もあのバブル崩壊後以上の危機に

直面しつつあると言われていました。それに伴って国はもちろん、地方自治体にも影響が及び、ますます疲弊が進むだろうと予測される状況下での「船出」に際し、町の産業に、経済に、どのような影響があるのか、一抹の不安を覚えるとともに身の引き締まる思いであります。

町内に目を移しますと、基幹産業である農業は、国の政策と現実のギャップからくる諸問題や高齢化、後継者難などで、衰退荒廃の一途をたどり始めていますし、商工業においても例外でなく、年々その活性化

が低下しつつあると思われれます。加えてニュータウン事業に関する販売不振、住宅区域の用途変更、大学の学部撤退など、計画当初の理想的な町づくりから、大幅な変更を余儀なくされている今の現状は、何一つとつても樂觀視できる状況がなく、依然として気の抜けない状況が続いています。

他方、町全体の課題として、少子高齢化に伴う医療、介護、福祉の充実、各産業の活性化、教育文化面の更なる振興、地域に密着したハード面の整備、そして何より、財政強化と多面においてその対応が求められていることも事実であります。まさに、そうしたこの時期でこそ、役場職員の一丸となった能力、行動力が十分に発揮されなければなりません。従ってそのための手段としての意識改革、組織改革も進めたいと思っております。言い換えれば、「公僕としての原点に帰ったサービス精神旺盛な行動力の実現、町民の皆様のご利益を最優先に考える行政本丸としての役場」を再構築するために一丸となつて立ち向かうよう対応してまいります。と思います。

重要課題の合併問題

そして、今時点で真剣に考えなければならぬ「合併」の問題があり

ます。最大究極の行政改革は市町村合併であると言われる中、県内ではその延長線上にある道州制論議まで交わしながら合併が定着しつつあり、今や館林邑楽地区を除けば、すべてその取り組みを否とせず、進んでいる状況は周知のとおりであります。将来に向かつて、明るい展望を切り開くためのスケールメリットを十分視野に入れた市町村合併は、脆弱な財政下の我が町においては避けて通る訳にはいかない重要課題と考えております。合併に対する情報提供を積極的に進め、慎重かつ、民主的な手順により民意の把握に努め、近隣市町と手を組みながら脱落することなく、スピーディーに推進してまいりたいと思えます。

同じ目線での協力を

いずれにいたしましても、選挙をとおして、いただいた声を声として、緊急な課題と思われるものから着実に一つひとつの姿勢でがんばっていきたく考えますので、町民の皆様にはぜひ、同じ目線での協力を切にお願いいたします。

とき、年の瀬を向かえ多忙な折、ご健康には十分留意され、新年をお迎えくださいますよう、心より祈念申し上げます。全力で町政運営に立ち向かうことをお約束申し上げます。